

せんげんひがしいせきしゅつど か そり いーしき ど き 「浅間東遺跡出土加曾利E式土器」

松伏町指定有形文化財（考古資料）
平成17年4月22日指定

せんげんひがしいせき ついひじ せんげん
浅間東遺跡は、大字築比地字浅間^{ついで} 一帶に広がる縄文時代中期の遺跡です。これまで5度の調査が行われ、多くの遺構^{いこう}（住居や穴の跡）、遺物が発見されています。

かそり
加曾利E式土器は、関東地方の縄文時代中期を代表する土器形式で、千葉県千葉市^{かそりかいづか}の加曾利貝塚E地点から出土した資料から名づけられました。縄文土器は、時期、地域による相違があり、形式は多種多様です。浅間東遺跡の第二次調査（昭和61年）で出土したこの個体は、同時期の加曾利E式土器と異なり、口縁部の装飾的な造形が特徴です。胴部文様の構成に同時期の東北地方で作られていた大木式土器^{だいぎ}の影響も見られます。このような土器は千葉県に広がる下総台地で見られます。現在は江戸時代の江戸川掘削により切り離されていますが、築比地地区は下総台地の一部であり、文化圏的に下総台地に属していたことが伺えます。

